

題材「学習することの大切さ」(第3学年)

〔事前指導 等〕



1 年間指導計画に示されている題材の指導内容の確認【学年会での打合せ】

教師：「今月の学級活動では、年間指導計画に則り『学習することの大切さ』について話し合い、生徒が目標をもって主体的に学習に取り組めるようにします。」

教師：「間もなく多くの生徒が部活動を引退するので、目的意識をもって学習に取り組めるようにしていきたいですね。」

2 生徒の実態把握

教師：「学習面での不安なことをアンケートに書いてください。」

S1：「僕は、部活を引退して勉強しなくてはいけないと思いながら、なかなかやる気が起きないんだよな。」

S2：「私は、今の勉強の仕方でもいいのか、不安だわ。」

3 アンケート結果の集計、事前打ち合わせ(学級活動委員会)

教師：「アンケートの回答から、あなたにパネラーをお願いしたいと思います。」

S3：「わかりました。」

教師：「アンケートの内容を、より具体的に話せるように、私とパネラー3人、司会と学級活動委員で打合せをしましょう。」

意図的、計画的な指導が学年・学校全体で行えるよう、年間指導計画を基に指導時期と指導内容を確認して展開する。

事前にアンケート調査を実施し、それを基に課題を明確化するなど、切実感のある話合いになるよう工夫する。

進行や資料作成を学級活動委員会や班長会が行ったり、生活班の輪番制にすることで、生徒が主体的に取り組めるようにする。

〔本時の展開〕



1 本時の活動の見通しの確認

教師：「今日は、①なぜ学習するのか、②どのように家庭学習を進めるか について、コーディネーターを中心にパネルディスカッションをして、考えを深めていきます。はじめに3人のパネラーの人から考えを言ってもらい、その後、質疑応答をしながらさらに考えを深めていきます。」(以下、略)

2 パネルディスカッション(コ：コーディネーター パ：パネラー)

コ：「それでは、一つ目のテーマである『なぜ学習するのか』について、3人のパネラーから意見を発表してもらいます。はじめに〇〇さん、よろしくお願いします。」

パ1：「私は、学習する目的は、自己を高め充実した人生を送ることができるようにするためだと考えています。受験勉強だけを目的にすると一時的なものになりますが、学習を通して、苦しい中でも努力し乗り越えていく経験は、将来の充実した人生に必ず役立つと思います。」

コ：「ありがとうございました。次に、△△くん、よろしくお願いします。」

パ2：「僕は、自分の将来の夢や希望を実現するために学習するのだと考えています。僕の将来の夢は、弁護士になることです。そのためには大学の法学部に入り、司法試験を突破しないとダメです。また、どの大学の卒業生が司法試験に多く合格しているか調べたところ、法学部に入ればどの大学でもよいという訳ではないことがわかりました。そう考えると、自分の夢を実現するためには、今は勉強するしかないと思います。」(以下、略)

コ：「次に、二つ目のテーマ『どのように家庭学習を進めるか』についてです。今度は、□□さんからお願いします。」(以下、略)

コ：「パネラーの皆さん、ありがとうございました。では、フロアの皆さんから、質問等がありましたら発言して下さい。」

活動の概要を伝え、見通しをもって話合いに望めるようにする。

内容(2)、(3)は、集団思考を通してこれまでの自分を振り返り、これからどのように過ごせばよいのかを考える時間である。

集団思考を深める工夫として、ここではパネルディスカッションを取り上げているが、この他にもKJ法や熟議等の手法や、小集団による課題解決に向けた話合いなどが考えられる。

教師の一方的な指導(講話)や、生活から離れたスキル学習など、学級活動の本質から外れるものは望ましくない。

事前にパネラーが自分の考えを端的に説明できるように打合せをする。また、生徒全員が自分の考えを明らかにした上で臨み、自分とパネラーの考えを比較しながら聞けるように指導する。

S4：「はい。〇〇さんの家庭学習のメニューを自作して取り組む方法がとても分かりやすく、私もやってみようと思いました。そこで、一つ教えてください。メニューを作るときにはどのようなことに心掛けていますか。」(以下、略)

コ：「そろそろ時間となりましたので、この辺でパネルディスカッションを終わりにしたいと思います。3人のパネリストに拍手をお願いします。」

3 これまでの反省と具体的な実践方法の決定

教師：「コーディネーターさんありがとうございました。それでは、パネルディスカッションを聞いて、学習への取り組み方について感想をもった人は、教えてください。」

S5：「はい。僕は、いつも冗談を言ってみんなを笑わせてくれる△△君が、実は将来のことを真剣に考えて努力していることを知り、正直、驚きました。自分は今まで部活動を引退したら勉強しなければいけないという漠然とした思いでいました。しかし、今日の話聞いて、学習することは夢の実現に近づくことでもあるということがわかり、学習への意欲が高まりました。」(以下、略)

教師：「それでは、これからどのような意識をもって、どのように学習に取り組むか、自分の目標を書きましょう。」

S6：「私は、今日から受験のためだけではなく、将来の夢を実現するためという意識で、毎日2時間、家庭学習にしっかり取り組んでいきたいと思います。」

教師：「自分に合った目標が立てられましたね。まずは今日から2週間、真剣に取り組んでみましょう」

集団思考を通して考えを深め、自己の実態を振り返る時間を設け、自己の実態に合った実践目標が立てられるようにする。



自分で決めた実践目標が十分な内容ではない場合(例えば、漠然としている、設定内容に難があるなど)は、個別に指導し、再考できるようにする。



〔事後指導〕

1 取組の振り返り(朝の会・帰りの会)

S7：「僕は、期末テストまでに取り組む学習内容をリストにして、できるようになったら消していく方法で取り組んでいきたいと思います。」

S8：「わたしもS7さんと同じようにリストを作っています。さらに、その内容を期末までの日程に割り振って計画表を作って取り組んでいます。」

S7：「なるほど。確かに、僕の方法だと最後まで終わらないかもしれないな。S8さんの方法を真似て取り組んでみよう。」

教師：「友達の方法を参考に改善すべきは改善しましょう。実現可能な計画でないと言った長続きしません。必要に応じて計画を見直すことも大切ですね。」

2 週に一度の自己評価

S9：「僕は机に向かうことに慣れてきたせいか、計画より長く取り組める日もあったぞ。」

S10：「私はついテレビを観てしまい、予定通りにいかない日もあったな。気持ちを切り替えて、どうしても観たい番組を毎日一つだけ決めて、それ以外は我慢しよう。」

教師：「テレビは全く観ないというのは難しいですね。観る番組を決めて時間を減らすなど、現実的に学習時間を確保できるよう、計画を見直してみましょう。また、既に定着した目標は、できる範囲でレベルアップしてみましょう。」

3 取組の紹介

教師：「学級通信に、皆さんの取組を紹介していますので、参考にしてください。」

S11：「みんないろいろ考えているんだな。私も自分で立てた目標に向けてがんばろう。」

S12：「友達の頑張りが見えると、みんなで取り組んでいる感じがして、意欲がわいてくるな。自分も頑張ろう。」

保護者：「うちの子の学級は学習へも仲間意識をもって取り組んでいるのね。安心だわ。」

自分で立てた目標の到達に向けて努力を積み重ねる活動を通して、自己指導能力の育成を図っていく。

実践を振り返る機会を設け、取組を継続させることができるようにする。



実践意欲が高まるよう、また家庭の協力や理解が得られるよう、学級通信などを通して紹介するとよい。